

機械（精密機械を除く）器具製造業における通路を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	10～11	工場にて作業中躓いて転倒し、左腕に体重が乗ってしまい、左腕手首のすぐ上部を骨折した。	42	1～9
1	9～10	同社工場内に於いて、フィルターの洗浄作業をするため作業場所に置いてあった鉄製のアングル材の支柱を数本移動する作業中、足元を見ていたつもりだったが、そばにあった他のアングル材に足をとられてしまい転倒した。その際にそのアングル材を握って前方に転倒したため、別アングル材の台座部分と握っていたアングル材とに右手環指と左手示指を挟み込み裂傷した。	55	10～29
2	17～18	掃除後、足に痛みを感じた。帰宅時、会社構内で空足を踏んだ状態となって右ひざを痛めた。	58	10～29
2	8～9	当社社屋内の通路の、床に油がしみ込んで滑りやすい箇所を歩行中、清掃前だったため足を滑らせて転倒してしまった。その際、頭を打ちそうになったので、かばう為に右手を着き、負傷した。	52	30～49
3	16～17	工場1Fメインライン現場で現場内を歩行しているとき、溶接機と製品置台の間（約48cm）を通り抜けようとしたところ、溶接機の配線（太さ約1.2cm、3本がまとめられているもの）に足をとられ転倒し、左膝蓋骨を骨折した。	47	50～99
3	13～14	機械B棟北側にて、痛みのある左足を補う為、自作の木の棒を杖として使用をしながら通路を移動中、通路で杖が滑り転倒しそうになった為、痛みがある左足で踏ん張った瞬間に左大腿骨折した。	61	100～299
5	20～21	ケーシング工程で研磨加工機を使用し加工を行っていた際、他の工程にある同様の加工機が停止していたため、その加工機を作動させようと急いで作業台（高さ10.5cm）から小走りに飛ぶような形で床面に着地した時に右足首を捻りその場に	23	50～99

		うずくまった。痛みはあったが作業が出来ない程ではなかったため最後まで勤務し、その後も痛みが引かなかった。		
5	18~19	鑄鉄一課溶解造型センター溶解場で作業中、湯道破碎機の設備とバツカンの間に湯道が噛み込んだので、稼働を停止後、設備内に入り、噛み込んだ湯道を取り除いた。その後、設備から出る途中で足を踏み外し、約1.3m下のフロアへ転落し、足から着地した際に設備で左肩を強打した。	33	100~299
5	17~18	検査室で作業中、急ぎの仕事が入って小走りになったところ、足を滑らせ転倒した。右足に全体重が乗るように倒れてしまい、脱臼および骨折をした。	23	30~49
6	11~12	工場内でロール内部拔出作業の為に、ロールに付けていたワイヤーロープを被災者が跨ごうとしたところ、バランスを崩し床面に身体の左側面を打ちつけた。	63	10~29
7	14~15	当社工場内組立場において工具棚から工具を取り出そうとしてバランスを崩し前のめりに倒れその際左腕を床に打ちつけ左肩を脱臼。（暑さのせいでボーとしていたこともあり）	74	30~49
7	16~17	パート勤務が終了したので、就業場所の2階より3階ロッカー室で着替え、1階に向かって階段を下り終えたがその下に段差があり（高さ6cm程）、その段差で足を捻り、そのまま捻った側に倒れてしまい、足を痛めた（右足第5中足骨骨折）。	50	100~299
9	8~9	会議室にてパソコンデータ投影用の収納式スクリーンを広げた際、スクリーンの足（高さ15m）に躓き転倒し、左手をついた際、左手首を骨折した。	56	1000~9999
10	6~7	製造ライン裏の素材供給場所へ向かって歩いていた。素材の残りが少ないことに気づき、素材置場へ向かうために、反時計回りに方向転換した時に、足を滑らせ右大腿部外側から床に落ちた。（金属部分の切削加工現場であるため、オイルミストが床に蓄積することにより滑りやすい環境である）	47	300~499
10	8~9	工場内機械組立エリアで、機械部品の確認をするために、保管場所に入ろうとした。近接エリアの機械を避けるために、屈みながら体を反転した時、バランスを崩し床に転倒、下肢を強打した。痛みが強く自身では足が全く動かさないため、	67	1~9

		救急車を依頼した。		
11	11~ 12	当社派遣先工場内にて被災者と当社派遣労働者との間で仕事上の指摘（作業対応に関して動作が遅い等）をされた事で口論となった。その際に被災者は複数回、平手や拳で殴られたりしたため顔面等を負傷した。	45	1~9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html